

Holidays! - 祝日 -



クリスティー・マツカワ
Christie Matsukawa
アメリカ出身

皆さん、こんにちは。もう春ですね。もう冬は終わってしまいました。私の好きなお休みは冬にたくさんありました。

アメリカでは、12月25日にクリスマスを祝い、1月1日に新年を祝います。その習慣と伝統は日本と違います。

アメリカでは、クリスマスは家族と祝うものです。家族と飾り付けたクリスマスツリーの下にプレゼントを置いて、ロースハム、マッシュポテトのようなごちそうを食べます。しかし、昨年のクリスマスは、私は日本に居たので、フライドチキンとクリスマスケーキを食べました。そして、アメリカではクリスマスは祝日となっていますが、昨年私は休暇を取って友達と過ごしました。

また、アメリカでは、大みそかの日に友達とパー

ティーをして、新年のカウントダウンをすることが恒例ですが、私は広島の親戚と一緒に過ごしたので、こたつに座って、紅白歌合戦を観て、何て静かなのだろうと思いました。これは文化の違いを感じる、とても興味深い経験でした。

これらに加えて、アメリカでは、祝日は歴史的に重要な出来事のためにあります。これらは、日本の「みどりの日」や「海の日」とは異なります。そして、アメリカのレイバー・デー（労働者の日・9月の第1月曜日）やサンクスギビング・デー（感謝祭・11月の第4木曜日）は、私たちの文化の一部であり、過去の歴史を理解するためにも重要です。これらの祝日には、お店の大売り出しもあることが多いので、みんなとても楽しみにしています！



図書館の おすすめ本

市立図書館
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索



『山桜記』

はむろりん
葉室麟 / 文藝春秋

著者初の七つの短編集です。九州を舞台に、戦国から江戸期の武士の妻が主人公の物語です。淡々と語られる秘話ですが、当時を生きた女性が凛として生きる姿が胸に迫ります。表紙のデザインが美しく本編と合わせ手に取ってほしい1冊です。



『おんなじ おんなじ おんなじね』

刈田澄子 / 作 つちだのぶこ / 絵
学研教育出版

みいちゃんのおめめは誰と同じ？お鼻は？お口は？家族の誰かと同じみたい・・・家族っていいな！

つちだのぶこさんのユーモラスな絵で、ページをめくるたびに笑顔になれる幼児向け絵本です。

◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介します



志佐町里免の本田寛子さんと小穂ちゃん（1歳）

【お気に入りの本】

『おつむ てん てん』 なかえよしを / さく 上野紀子 / え 金の星社

【お母さんからひとこと】

わが子にも本を好きになってもらいたいという思いから、お腹の中に居るころから、絵本の読み聞かせをしていました。そのおかげ(?)か、私が思っていた以上に絵本に興味を示してくれるようになり、特にリズムカルな言葉の絵本がお気に入り、自分の好きなフレーズの所になると、キャッキヤと喜び、まねをしようとします。読み聞かせの仕方や手遊びなどは、図書館でのおはなし会などを参考にさせていただいており、親子でリフレッシュできる良い機会でもあるので、毎回参加して楽しんでいます。これからも親子で絵本のある生活を楽しみたいと思います。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしています！

中世の松浦 (63) 鷹島海底遺跡

1月16日から3月9日までベトナム国立歴史博物館で開催された日本文化展において、鷹島海底遺跡の遺物が初めて海外で展示されました。

展示された遺物には「てつほう」2個・石弾2個・鉄製冑1口・陶磁器3個・碇石1組があり、3月25日に文化庁から返却されました。文化庁から冑などは大変注目され、好評であったとの報告をいただいております。

また、平成25年度の文化庁の補助金を受けて実施しました、鉄製冑9点の強化処理と矢束1点の保存処理が終了し、3月26日に処理を依頼した専門業者から戻ってきました。これらの遺物は約4カ月半に鷹島に戻ってきたこととなります。

これに伴いまして、鷹島歴史民俗資料館および鷹島埋蔵文化財センターでは、これらの資料を公開するため、3月27日から施設内の資料の一部展示替えをしています。

矢束は、未使用の矢が束になった形で、全体が錆に覆われた状態で処理をしています。錆を落とすと本来の矢や鉄鏃の形がなくなってしまう可能性が高いからです。迫力のある鉄製冑と初公開の矢束を見学してみませんか。皆さんのご来館をお待ちしています。

資料館の入館料は4月1日から一般300円を310円に変更、小中高校生は現行の140円となっております。



▲ 保存処理する前の矢束

⑧ 「ひゃーし」の景観とまちづくりへの可能性

景観づくり通信

○問合せ先 都市計画課都市計画係 ☎内線 252、253

2月23日に、文化会館において『松浦市景観まちづくりシンポジウム～「ひゃーし」の景観とまちづくりへの可能性～』が開催され、市内外から約30人が参加しました。

このシンポジウムは、松浦住まいづくり研究会(古本修司代表)が約10年前に発掘した松浦らしい住まいの特徴である「ひゃーし(高生垣・防風林)」を広く情報発信するとともに、ひゃーしを生かしたまちづくりの可能性について考えることを目的に開催。文化庁記念物課の鈴木地^{ちへい}平氏による基調講演では、滋賀県高島市針江地区や平戸市春日地区を例に、全国で展開されている文化的景観の保全・活用策が紹介されました。その後、福岡大学景観まちづくり研

究室により発表されたひゃーしの調査研究結果をもとに、有識者によるパネルディスカッションが行われ、情報発信の方法・協力体制の構築・次世代への伝承の必要性・観光メニューへの展開などについて意見が交わされました。



▲ 鈴木氏による基調講演の様子